

2020年度 第2回町田市食育推進計画策定及び推進委員会 会議録要約

会議体の名称	町田市食育推進計画策定及び推進委員会		
事務局（担当課）	保健所 保健予防課		
開催日時	2021年2月15日（月） 13:30～15:30		
開催場所	オンライン 町田市役所 7-2 会議室		
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 保健所長挨拶 3. 委員長挨拶 4. 委員長代理選出 5. 委員自己紹介 6. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 町田市食育推進キャラクターの作成について【資料1】 (2) 2021年度の食育推進事業について【資料2～3】 7. その他報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 2020年度進捗管理シートの提出について【資料4】 8. 閉会 		
公開の可否	会議	公開	
	会議録	公開	
出席者	委員	饗場 直美 (学識経験者) 亀山 光春 (東京都町田市歯科医師会) 千葉 勢子 (町田市法人立保育園協会) 湯目 英人 (町田市幼稚園協会) 貝原 俊明 (公立小学校校長会) 矢島 加都美 (公立中学校校長会) 田中 芳美 (小学校栄養教諭) 新倉 敏和 (町田市農業協同組合) 井上 孝男 (市内農業生産者) 吉永 みずほ (町田集団給食研究会) 村上 律子 (町田地域活動栄養士会) 坂本 愛 (町田市観光コンベンション協会)	
	事務局	保健予防課	

欠席者	委員	五十子 桂祐	(町田市医師会)
		富田 一女	(高等学校教諭)
		小口 悦子	(大学教員)
		松井 大輔	(町田商工会議所)
		福田 猛夫	(東京都町田食品衛生協会)
		濱川 慎太郎	(町田市公立小学校 PTA 連絡協議会)
		墨林 里枝	(町田市立中学校 PTA 連合会)

配付資料	<p>【配布資料】</p> <p>資料1 食育推進キャラクター作成アンケートまとめ</p> <p>資料2 町田市の食育推進についての第1回町田市食育推進計画策定及び推進委員会アンケートまとめ</p> <p>資料3 町田市食育リーフレット第13号</p> <p>資料4 2020年度町田市食育推進計画進捗管理シート 町田市食育推進計画策定及び推進委員会名簿</p>
------	--

検 討 経 過

1. 開 会
2. 保健所長挨拶
3. 委員長挨拶
4. 委員長代理選出
5. 委員自己紹介
6. 議事

(1) 町田市食育推進キャラクターの作成について【資料1】

委員長：これまでの食育キャラクターの使用が難しくなったことから、新しいキャラクターの作成に向けて動き出したところだったが、コロナの影響で進捗状況がよくないため12月に新規キャラクターの作成についてのアンケートを行った。結果が資料1の通りである。結果から、「今後も食育キャラクターを活用した方が良い」との回答であった。今までのキャラクターも使用しないのではなく、それとは別の「動けるキャラクター」を新規に作成したいということになった。またコンセプトとしてキャラクターの数は「単体」又は「複数」で考えており、モチーフは今まで通りの「町田市の特産物や野菜」で考えている。当初の予定では今年度中にキャラクターを作成し、来年度から活用することになっていたがコロナの影響で遅れている。そこで各団体でどのくらい協力していただけるか聞いたところ、JA 町田市は桜美林大学との産学連携協定を結んでいることから協力できるかもし

れないとの回答をもらった。これについて J A の委員に説明をお願いしたい。

委員：アンケート結果に記載されている通り、昨年桜美林大学と産学連携協定を結び、食育や町田市の農業について連携して盛り上げていこうと考えている。今年度、生産者のところにゆずの収穫の手伝いができないかと考えていたが、今年は学生がリモート授業で学校に出てきていないため、学生の事務局とこれからの活動について話し合っているところである。

委員長：具体的にどのようなことを協力していただけるかは検討が必要ということではないか。

また、他の委員からの意見では、美術系の学生や美術部の生徒、先生に頼んだり、小・中学生に宿題で図案を考えてもらうなどの意見が出たが、今年度中に作成するのは時間的に難しい現状である。今後の方向性としての委員長としての提案として、神奈川工科大学の情報工学の学生は東京都保健所の食育に関するデジタルサイネージを 50 本作成している実績があり、さらにイラストの書ける学生が数名いるので具体例としてキャラクターを作成して見せることができると考えている。ちょうど春休み期間中で学生は動きやすい時期でもあるので、来年度に向けての案を提供できると思われる。これに関して意見はないか。

意見が無いようなので、J A の委員と事務局とで連携を取りながら進めていきたいと思う。

(2) 2021年の食育推進事業について

<町田市の食育の現状等について> 【資料2】

ア：2019年度食育推進事業の評価について

委員長：資料2をご覧いただきたい。皆様からの回答をみると、コロナの影響が大きいとはいえ、その中でも少しでも成果が見えてきたように感じている。一つのポイントとして、この状況がいつまで続くのか見通せない中、中学生の食に対する考え方をどう育成のか、給食では共食ということ意味もあるが全員前を見て食べ、感染予防をしながらの給食という事を続けていかななくてはならず、こういった状況下でどのような体験をさせられるのかを考えていかななくてはならない。他にも委員からの回答から「できるところからやろう」ということで「情報発信」として「SNS で発信していた」という回答があり、これは活用できる情報だと思われた。さらに食中毒の予防や、体験を通しての食育活動をどうやって行くかを委員会として検討していく必要があると感じている。また、事業アンケートの中で「主食・主菜・副菜を揃えて食べている」割合が少し減少していたが、目標の65%は2023年度の目標なので達成するためには共通の考え方として、パンフレットを作成して情報発信をしていき、それには今回作成するキャラクターを利用してもよいと思われる。ここで観光コンベンション協会の委員に SNS の発信についてお聞きしたい。

委員：コロナ感染予防のこともあるので「お店に行ってください」という趣旨を発信しても良いのか難しい面もあったが、いろいろなお店が工夫をしてお弁当を販売したり、食材を販売していることを発信することで協力できればと思っている。反響もかなりあった。

委員長：外に出ていかない中でも情報発信の一つである SNS というのは効果的という事がわかった。

特に今回アンケートの中でみえてきた「主食・主菜・副菜が揃った食事」についての目標を達成するためには、食育キャラクターを使用して情報発信していただくだけではなく、SNS 等を使っていきながらバランスの良い食事をするためにはどうすればよいのかを考えるのが課題である。

さらに、2019年度、2020年度を見ても「20代の朝食を欠食する割合」を指標としている事業が見当たらないので他の事業と組み合わせた計画が必要と考えている。

イ：2020年度の各機関の取組について

委員長：各機関の取組・方向性・課題について報告してもらったことについてご覧いただきたい。

～以下は、アンケートの回答を記載～

- ・歯科医師会では学校歯科医師会等を通して情報提供をしている。
- ・課題としてあげている保護者に対する食事の重要性を理解してもらうことについて、20代30代の若い世代の朝食欠食はどの年代よりも多く、そこを同じ年代の保護者として一緒に見てもらい、食事の重要性を子どもと一緒に考えるような取組が重要なので、この課題は共有化が必要だと思う。
- ・各園で特性を生かしながら食育活動を行っている。ネットワークを作りづらいとのことなので後から話を伺いたい。
- ・情報発信の方法を考えていかななくてはいけない。
- ・実際に自分たちの食事をチェックできるような媒体があると良い。
- ・地産地消を推進していく中で地場野菜の使用率をあげていくといった取組の報告があった。
- ・実際に野菜を作っている中でどうやって安定的に供給していくか、食べてもらうかを考えていきたい。
- ・コロナ禍の中での講習会や教室の開催についての課題
- ・感染リスクを考えながら食育イベントの参加を考える。
- ・市民活動が中止なので、現在は内部学習をすすめている。
- ・冊子の配布や SNS を通じて地産地消推進のための情報発信をしている。
- ・今年はコロナ禍なので、給食委員会、給食試食会が中止となった。
- ・気軽に食育を感じることができる場所があると良い。

コロナ対策を継続しながらの取組を検討する必要がある。これらの意見を踏まえてさらに補足することはないか。

委員：クックパッドマートの説明をさせていただきたい。クックパッドと町田市で協定を結んで始めたアプリで、市内12か所に冷蔵庫を設置している。このアプリを使用してアグリハウス鶴川で出荷している野菜を買えるというものである。これにはまだ課題があり、

箱の規格が小さいため入りきらない野菜があることなど、受け取り用の冷蔵庫の設置場所を町田市と協力して増やすことがある。

委員長：これからもっと広範囲でまちベジ野菜を買えるようになることを期待する。

委員：朝食をきちんと食べることは基本と考え、バランスも大切だがまずは「食べること」から始めている。保育園の給食は主食・主菜・副菜は揃っているの、参考に園のレシピの配布をしている。先ほどのクックパッドマートも当園も鶴川地区にあり、保護者に情報発信することで利用してもらえ可能性があり、繋がりが重要だと感じた。また、中学校のレシピコンテストも SNS での発信や動画配信することで保護者も興味を持ってもらえると思われる。

ウ：今後の連携について

委員長：今後の連携についてご意見があったのでご覧いただきたい。

～以下は、アンケートの回答を記載～

- ・連携できる部分が少しずつ見えてきた。
- ・連携することが難しい部分もある。ほとんどの園の給食は外部委託のお弁当給食と思われる、栄養士がいないのでネットワークの構築が難しい。情報交換できると良いが、園長会では各園の食育の取組を議題にしていない。
- ・教科や領域に頑張ってもらえるように働きかけをしたい。
- ・コロナ禍での連携は検討が必要だが、協力はできると思う。
- ・地場野菜を普及する観点から、JA では学校給食担当を配置しているので、栄養士さんの会議での意見交換ができるとありがたい。
- ・地域のみなさんの理解が無ければ農業はできない。学校給食で、不足する野菜を直売所から調達するのも良いのではないか。
- ・協力依頼があれば前向きに検討する。
- ・市民との関わりも多いので連携させていただきたい。
- ・「食育フェス」の前後に野菜収穫体験の開催や名産品、特産品の販売会をイベントとして行うと広く PR できると思う。

委員長：ここで連携との関連から来年度の食育フェスについて事務局より説明してもらいたい。

事務局：食育フェスは2019年度から6月の食育推進月間に開催している。今年度も6月に開催予定だったがコロナの影響で中止となったため、代わりに11月に町田市の総合健康づくり月間というイベントに保健所として参加した。内容は動画の配信、ホームページとチラシにクイズを掲載した。このような実施方法は、天候に影響されず実施できるので良い方法であった。来年度については、今後の状況次第だが、今年度と同様に11月の総合健康づくり月間か、市立総合体育館で開催される年4回（5月、8月、11月、2月）のイベントに合わせて実施するという事を考えている。年度の始めでは各委員の団体から

は参加するには準備の時間が無いという声を聞いているので、時期的には後半が良いかと思っています。来年度は是非委員の皆様と参加したいので、意見を聞きながらすすめていきたい。1回目の委員会で詳細を話せればと思っています。

委員長：事務局からの説明があったが、来年度開催するにあたって第1回の委員会までに各委員に問い合わせがあると思われるのでご協力をお願いしたい。
食育フェスについて質問はないか。

委員：食育ツーリズムを実施させていただいているが、今年度の実施は1回だった。食育ツーリズムもオンラインでの開催を検証しているが、収穫体験や調理無しでの食育ツーリズムが成り立つのか、また従来とは別の形として実施することで食育フェスに参加できるのかと考えている。

委員長：実体験については、オンライン化することでどのようにしたら擬似体験ができるのかは知恵を絞らなければならないところである。

<「まちだ食のわ情報」の活用について>

委員長：お手元にある「食のわ情報」をご覧いただきたい。活用方法についての意見として、「子どもだけでなく高齢者も喜びそうなものになっていると思う」「レシピやメニューもあったらよい」などがあげられている。総括として町田の食育状況がカレンダーで共有でき、その情報を SNS で発信できていくと良いと思われる。
SNS の情報発信について事務局から説明してもらいたい。

事務局：SNS に関しては第1回の書面会議で報告したとおりである。コロナ禍で食育活動の中止が相次ぎ、これからますます ICT を活用した食育活動が必要となるので委員の皆様とともに広げていきたいと思っている。

委員長：SNS でお互いにリンクをはり、ネットワークができると良い。また、載せてほしい情報などを事務局にお知らせ頂きたい。

<中学生レシピコンテストについて>

委員長：昨年から始まっているレシピコンテストについて、情報発信できそうな媒体という事で皆様からの意見をまとめたのでご覧いただきたい。このレシピコンテストの主催は教育委員会だが、食育推進委員会として連携・協働して行う事ができると取組が広がる。現在は中学生が対象だが、提案として「優秀賞は給食で提供する」「町田産の野菜を使ってみる」「審査員の中に学生（子ども）も入れてみる」「毎年テーマをつくる」などがあげられている。また景品があると良いという意見もあった。
学校の先生からも今後の方向性としてお話をお願いしたい。

委員：町田の教育プランの中に「食育をがんばりましょう」という内容があるが、中学校

は何もやっていなかった。そこで指導課から提案があり「朝食、30分以内」という制限を付けて取り組んだ。20校のうち19校が参加し各校10点まで提出してもらい、保健所からも専門的な立場から審査員をしてもらった。賞状と食育キャラクターの景品を渡したことでさらに興味を持つことができたと思われる。今後地産地消もテーマに入れてすすめていきたいと思う。

委員長：小学校ではどうか。

委員：小学校では家庭科の授業でレシピ作り、お弁当の日がある。中学校でレシピコンテストをやっているならば、小学校でもやってみたい。中学校のお弁当給食は保健給食課の栄養士が献立を立てていると聞いている。これを参考にすることで「主食・主菜・副菜」を組み合わせることを意識させることができると考える。中学校の給食の喫食率が低いようだが、バランスが取れていることをPRすることで喫食率をあげることもできるのではないか。

委員長：レシピコンテストについて、今年は「朝食」がテーマだったが、今後「お弁当」にしても良いと思う。また、このレシピコンテストのメニューを保育所や幼稚園のお便りに載せたりすることで、町田市全体で「朝食」について考えたという事が保育園・幼稚園から中学校までの一体感が生まれ、市としてまとまった活動ができていくのではないか。ぜひ小学校でも参画できるように働きかけていただけるとありがたい。

委員：指導課では中学校で好評だったので、小学校の5・6年生は家庭科があるので希望者だけでも参加するという考えはあるようだ。

委員：夏野菜の茄子は同じ時期にたくさんできてしまい、直売所でも余り気味になってしまうので、できれば茄子でレシピを考えていただけるとありがたい。

委員長：是非、JAも連携を組んでいただきたい。

いい作品が保育園や学校の給食に出たり、SNSで紹介されたりすることで、子どもたちのやる気や、食べる楽しみにもつながると思われるので広めていきたい。

最後にまとめると、これまでの意見をもとに来年度に向け、「キャラクター」については神奈川工科大学の学生がたたき台を作成し、そこに桜美林大学がどのくらい参加できるか模索しながらすすめていき、「食育カレンダー」についてはSNSなどを使って発信し「主食・主菜・副菜が揃った食事」「朝食を食べよう」を広げていくこと、「食育フェス」については、事務局が提案しているように11月ごろを目安にできればという事を相談していくと思うので、積極的に参加していただきたい。

他に何か意見はないか。

委員：学校歯科医師会を中心に食育活動を行っているが、食育は保育園・幼稚園から高齢者まで一生続くことなので、危機感を持ちながら広い年代で考えていきたいと思っている。

委員：「主食・主菜・副菜揃えて食べる」市民の割合が少ないので、小・中学生のコンテストだけでなく、市民のコンテストなどもあればきっかけづくりになるのではないかと。

委員：コロナが落ち着いてから、生活習慣病が悪化された方や高齢の方で低栄養になった方増えるのではないかと危惧している。

7. その他報告

(1) 2020年度進捗管理シートの提出について【資料4】

事務局：資料4をご覧ください。

記入例を参考に記入して4月上旬までに提出していただきたい。提出日については後日お知らせする。

委員長：これについて質問はないか。

委員：学校の取組は本校の取組を記入すればよいのか、学校全体の取組を記入すればよいのか。

事務局：小・中学校については指導課が取りまとめてくれているので、指導課から連絡があると思われる。

委員長：その他意見が無ければ事務局より2点連絡事項がある。

事務局：①謝礼について。

②次回の委員会は7月ごろを予定している。委員の任期は2年となっているので引き続きよろしく願いしたい。

以上